



# ともしび

— TO MO SI BI — 第266号

2018(平成30)年6月号

## 降誕会

朝晩は少し冷えるものの、日中は爽やかな陽気で過ごしやすい季節になりましたね。私は、この時期が一年で最も好きな季節でもあり、今月で一年を取ります。また、我が家の長男も今月で3才になります。自分の誕生日を祝う気持ちにはなれませんが、その分長男の誕生日は大いにお祝いしようと思っております。

さて誕生日というと、今月(6月3日)は、当会館におきまして宗祖親鸞聖人の降誕会法要をお勤めいたします。降誕会(ごうたんえ)は、親鸞聖人のお誕生をお祝いする行事で、浄土真宗の寺院ではとても大切に行っている行事の一つです。

親鸞聖人は1173年5月21日にお生まれになりましたので、今年で845年となります。5年後には、親鸞聖人ご誕生850年と立教開宗800年(浄土真宗が開かれたこと)の法要が、本願寺でお勤めされることになっていきます。

親鸞聖人のご生涯については、これまでも度々紹介してきましたので、今号では浄土真宗の中でも有名なお書物である『歎異抄(たんにしよう)』についてご紹介いたします。

『歎異抄』は、親鸞聖人がお亡くなりになった後、直弟子の唯円という方が著された書物です。当時、門弟の間では、故聖人の口伝されたお念仏のみ教えに背く異義が生じました。そこで、親鸞聖人から直々に教えを聞かれた唯円房が、異義を歎き、不審に思うお同行のために著されたと言われています。

『歎異抄』は、最初にこの書物を著す趣旨があり、本文は18箇条という短い構成で、親鸞聖人がお書きになった『教行信証』よりは比較的読みやすい書物ですが、読み方によっては誤解を招くこともしばしばあります。しかし、それは唯円房のお念仏への味わいの深さがあるからなのでしょう。ある先生は、カミソリのような鋭さがあるとも言われています。それほど、浄土真宗のみ教えについて洗練された書物なのです。

『歎異抄』を初めて読んだときは、難しくてよくわからないという印象でした。その中でも特に衝撃を覚えたのが、

「善人なほもつて往生をとぐ、  
いわんや悪人をや。」

というお言葉です。これは、浄土真宗のみ教えの三本柱の一つである「悪人正機」が説かれています。

このお言葉は、「善人でさえ往生できるのだから、悪人は言うまでもない。」という意味です。これは、逆じゃないのかと思う方が多いのではないのでしょうか。しかし、これが親鸞聖人独特の味わいなのです。善人と呼ばれる人は、自力修行によってさとりを得ようとするため、阿弥陀仏におまかせする(他力)心が欠けている。どんな功德を積んでも、煩惱を離れられない私たちが救われるのは、ただ阿弥陀仏におまかせすることであり、その悪人こそが、阿弥陀仏の救いの目当てなのです。と仰せになりました。

どうぞ、当会館の降誕会にお参りいただき、今一度み教えを味わわせていただきましょう。

# 仏事あれこれ

## 仏事のQ&A

Q. 花はなぜお供えする？

A. 輝くいのちを表す

ご承知のように、花は万人が愛すると同時に、生活に潤いをもたらしてくれます。床の間の生花に心が和み、野の草花に心洗われる方も多いことでしょう。また、その可憐な美しさは病人の沈みがちな心を慰め、結婚式では文字通り「花嫁」に花を添えます。

このように誰からも喜ばれる花ですから、敬愛や感謝の代弁者ともなります。表彰式や発表会で花束が贈られたり、フアンが舞台上のスターに捧げたりします。

こうして見てきますと、心から敬う仏さまに花をお供えするのも、ごく自然な行為だと言えるのではないのでしょうか。すなわち、仏花をお供えするのは仏さまのお徳を讃え、そのご恩に感謝する気持ちの表れなのです。

しかし、ただ単にこちらの気持ちを表すだけではないのがお仏壇のお飾りです。もしそれだけなら、自分が供えた花にもかかわらず、花の向きが仏

さまの方を向かず、私の方に向けられている説明がつきません。これは「ローソクの火」と同じことで、私が供えた花はそのまま私に注がれている仏さまのお心を表していると味わうからです。

阿弥陀仏は無量寿仏とも申され、はかりなきいのちの仏さまです。短い一生にもかかわらず、そのいのちを精いつばい輝かし咲いている花を通して、すべてを生かし育んでくださる仏さまのいのちに触れさせていただきましょう。

また、浄土は妙なる花々に包まれたところ。みずみずしく清らかな花に接して浄土を想い、素直な気持ちになつて仏さまのお心を味わわせていただきたいものです。

なお、仏花の種類ですが、以上のことから造花はふさわしくないことがおわかりでしょう。庭先の花でもけっこうですから、四季おりおりの生花を、心を込めてお供えしてください。ただし、毒花やトゲのある花、悪臭を放つ花などは避け、悲しみの時は通常、赤い花は遠慮します。

『新・仏事のイロハ』より抜粋

## お知らせ

封筒のデザイン一新！



今号をお受け取りになった時、あれ？と思われませんか？

本願寺の封筒デザインが新しくなり、当会館の封筒も築地本願寺と同等のものに一新させていただきました。しばらく慣れないかもしれませんが、今後はこの封筒で発送させていただきますので、よろしくお願ひします。

## 平成30年の年回表

(ご法要のお申し込みをお忘れなく)

平成30年 年回表	
1周忌	平成29年
3回忌	平成28年
7回忌	平成24年
13回忌	平成18年
17回忌	平成14年
23回忌	平成8年
25回忌	平成6年
27回忌	平成4年
33回忌	昭和61年
50回忌	昭和44年



# 5月行事の様子

## ★常例法座 5月13日(日) 13時~15時

正信偈のお勤めの後、ご講師・横内教順師よりご法話をいただきました。  
途中から雨模様でしたが、17名の方が参拝されました。



当日、境内に看板や旗などの準備をしている時、近所の子どもがやってきて、「何してるの?」と聞いてきました。その瞬間をパチリッ。

### 勤行「正信偈」



### 横内 教順師

今回で2度目のご縁となる東京の若手布教使のホープであり、しっかりとご法義を抑えたご法話をいただきました。  
また、築地新報の編集員としても活躍されています。

### 5月の誕生日の皆さま



## ★おみがき・境内清掃 5月20日(日) 10時~12時

爽やかな晴天のもと、おみがきと境内・館内清掃などを行いました。  
19名の方にお手伝いいただきました。

### おみがき (仏具を薬液で洗浄)



### おみがき (仕上げ拭き)



当日お手伝いいただいた方の多くは、この道何十年のベテランで、それぞれの持ち場の作業をスムーズにこなしておられる姿に、ただただ感心しました。

### 境内清掃



子ども達も一生懸命(?) 手伝ってくれました。

### おみがき後は、皆さまと昼食



# 東久留米会館の 行事案内

—Schedule—

## ▶ 6月の行事予定

### 降誕会・奉讃会総会

6月3日(日) 午後1時～

ご講師 福井 学誠師  
(埼玉県 浄泉寺)

奉讃会総会も併せて開催します。  
懇親会も行いますので、是非ご参加ください。



### 親鸞聖人御命日お晨朝総参拝

6月16日(土) 午前7時～

月に1度、朝のお勤めにお参りしませんか?  
お供物のおさがりをプレゼントいたします。

### 第1回キッスサンガ子ども会

6月23日(土) 午前10時～

小中学生対象です。小さなお子さまは、  
保護者同伴でご参加ください。

### 境内清掃

6月30日(土) 午前9時～

境内の草取りを中心に行います。  
ご協力よろしくお願ひいたします。

## ▶ 7月の行事予定

### 常例法座

7月8日(日) 午後1時～

ご講師 柏倉 学法師  
(千葉県真宗寺)

どうぞ、お気軽にお参りください。



### キッスサンガー泊サマースクール

7月28日(土)～29日(日)

お寺でたくさんの友達と泊まり、ひと夏の  
思い出作りにサマースクールを開催します。

東久留米会館会報 「ともしび」  
第266号  
発行日 2018年6月1日  
発行者 安邊 泰教  
住所 東京都東久留米市柳窪5-8-30  
電話番号 042-474-6787

### 編集後記

先日、長女の小学校の運動会があり、応援に行ってきました。競技を一生懸命取り組む姿に、成長を感じました。一緒に行った長男は、泣き叫んでいましたが…(安)

今月のお仏飯米のご進納  
ありがとうございます。

5月20日おみがきお手伝い  
北川康雄様 神谷正弘様 菅野ヨシユ様  
大嶋弘様 高田慶彦様 神谷玲子様  
田口康子様 浅野由美様 高田テルハ様  
渡邊タキ子様 奥川眞三様 加藤吉長様  
才野木康雄様 熊谷武様 村井保夫様  
石田和美様 石田優様 飯島悠様